

先進的あるいは特色ある教育課程	学校名等	課程
生徒の「ICT等の活用による学び」	千葉県立検見川高等学校	全日制 普通科

ア 取組状況について

① 教育課程

(教育課程編成)

- ・本校は、昭和49年に創立した、各学年8クラスの男女共学の全日制普通科高校である。
- ・目指す学校像を「生徒一人一人が意欲的に学校生活に取り組み、『高い学力』と『豊かな人間性』を着実に身に付け、自らの進路希望を実現できる学校」とし、創立以来の文武両道を継承して「部活動の盛んな進学校」を標榜している。
- ・1、2学年は、学問の基礎・基本を身に付けさせるために、生徒全員が概ね共通科目を学習し、3学年では、進路や興味・関心に応じて文系2類型、理系2類型の計4類型に分かれる。
- ・ICTを活用して個別最適な学びを目指す学校設定教科「リメディアル」を設置するとともに、3学年には選択科目として18科目の学校設定科目を設置し、生徒の学習意欲や進路希望等に対応した多様な学習を実現できるようにしている。

(授業展開)

- ・教科・科目及び総合的な探究の時間の授業においては、1人1台端末を活用し、主にワークシートや資料等の配信、課題解決に向けた検索、生徒の意見等の共有や整理、英語の発音練習、プレゼンテーション、学習の振り返り、小テスト等を行い、学習の深化を図っている。
- ・学校設定教科「リメディアル」においては、学習支援ソフト等を用いて生徒各々が自己の学習課題の克服に向けて主体的に学習に取り組んでいる。
- ・長期療養等により登校できない生徒には、リモート授業を実施している。

② 教員の指導力向上

(教員研修)

- ・令和元年度から2年間、千葉県教育委員会の「高等学校普通教室用ICT環境検証事業」に指定され、県外の先進校の視察、公開授業、研究協議を行うとともに、全職員が教育活動にICTを活用できるよう、校内研修を実施した。
- ・教科の特性に応じて、1人1台端末の活用に係る研修を行うとともに、若手教員による研修会において、1人1台端末の活用事例の情報交換会を実施している。

(外部人材の活用)

- ・千葉県教育委員会から週1回派遣される学校DX推進パートナーが校内研修等を実施するとともに、各教科や個々の教員に対して、ICTを活用した授業の支援、ICTの活用方法に係る助言等を行うことで、ICTを活用した学習指導の充実を図っている。

③ 校内組織

- ・ネットワークや設備の管理等を担当する情報ネットワーク委員会を置くとともに、令和元年度から5年間ICT検証研究委員会を置き、ICTを活用した学習指導を推進した。
- ・令和6年度から学力向上推進委員会を設け、ICTを活用した授業改善を進めている。

④ 施設設備

- ・令和2年度に、学校独自に全ての普通教室にBYOD回線を設置するとともに、プロジェクタとスクリーンを配置し、ICTを活用した授業を円滑に行うことができるようにした。
- ・現在、学習活動において、全学年の生徒が保護者の負担で購入したタブレット等(1人1台端末)を活用することができるとともに、BYOD回線のない特別教室については、可搬式アクセスポイントを設置することでICTを活用した授業を行うことができている。

⑤ 取組の成果の(都道府県)全体への普及・共有方法

- ・県内の高等学校教員を対象に、「高等学校普通教室用ICT環境検証事業」指定校として、ICTを活用した授業を公開するとともに実践報告を行った。
- ・学校DX推進パートナーによる実践報告が県立高等学校において共有されている。
- ・県内の大学の研修会等で学校関係者対象に取組及び成果について報告等を行っている。

⑥ その他

- ・令和6年度に「高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)」に指定された。

⑦ ポイント(優先順に箇条書きで3つまで)

- ・教員の指導力向上(ICTの活用方法の共有) ・施設設備の充実 ・機能的な校内組織

イ 今後の課題

- ・全ての授業でICTを円滑に活用するために、特別教室や体育館等にもBYOD回線を敷設する必要がある。
- ・ICTを活用した学習指導における教員の指導力を高める必要がある。
- ・ICTを活用した学習と学力の関係について検証した上で授業改善を進める必要がある。